

からだのとしょかん通信



※「からだのとしょかん」は感染対策をしながら開室中です。
今号はがんの治療薬、薬物療法、就労支援について紹介します。

2021年12月号

「がんの治療薬」について

薬剤部 医薬品情報室 田中 佳美

がんの患者さんに使うお薬は数多くあります。それらは、がんを治療したり、症状を改善したり、つらい痛みや苦痛を和らげたりするために使用します。

近年、がんの治癒や進行を抑えることを目的とする「がんの治療薬」は、急速に開発が進み、国内でも様々な薬が使えるようになってきています。

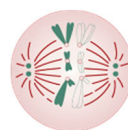
これらの「がんの治療薬」は、主に4つのグループに分けることができます。それぞれのグループについて特徴をご紹介します。



細胞障害性抗がん剤(化学療法)

パクリタキセル、シスプラチン、イリノテカン、カペシタビンなど

- ・従来から行われている治療法で、現在も多くのがん種で使われています。
- ・細胞の分裂を抑えたり、がん細胞の DNA に損傷を与えたりすることで効果を発揮します。
- ・お薬によって程度の違いがありますが、吐き気や脱毛が起こりやすいものが多いです。また、白血球が減少し免疫が低下するため、感染症への注意が必要です。



分子標的治療薬(個別化治療、狙い撃ち治療)

トラスツズマブ、ペバシズマブ、ゲフィチニブ、イマチニブなど

- ・2000年代から登場した薬で、がん細胞に現れているターゲット(標的)に作用します。
- ・有効性や副作用を予測するため、バイオマーカーを調べることがあります。
- ・抗体薬(注射薬)と、小分子化合物(主に飲み薬)があり、次々に新薬が開発されています。
- ・脱毛や吐き気が少ないものが多いですが、それぞれに特有な副作用に注意が必要です。
- ・抗体に細胞障害性抗がん剤を結合させた薬剤も登場しています。
- ・高額な薬剤が多いため、高額医療制度の対象となる場合があります。



ホルモン療法薬

タモキシフェン、ピカルタミド、GnRH アゴニストなど

- ・乳癌や前立腺癌のうち、ホルモンが関与している場合に使用できます。
- ・吐き気や脱毛はほとんど無く、重い副作用は少ないです。



免疫チェックポイント阻害剤

ニボルマブ、ペムブロリズマブなど

- ・2014年以降登場した新しい治療薬です。この治療法の研究により、日本人医学者の本庶佑教授が2018年にノーベル賞を受賞しました。
- ・がんの免疫機構に作用し、自分自身の免疫細胞を活性化させます。活性化された免疫細胞は、がん細胞を攻撃します。
- ・免疫反応に関連して起こる肺障害、大腸炎や1型糖尿病の他、多彩な副作用に注意が必要です。



実際の治療では、これらの治療薬を組み合わせる場合もあります。治療が安全に行えるように、それぞれのお薬に合わせた副作用の対策や検査を行っていきます。

がんの薬物療法について

がん化学療法看護認定看護師

磯貝 佐知子

がんの治療法のひとつに「薬物療法」があります。以前は「手術療法」ががん治療の中心でしたが、近年薬物療法や放射線療法の進歩により、がんの種類やステージ(病期)によっては手術療法と変わらない効果も認められています。

【薬物療法の目的】

- ・がんを治す
- ・がんの進行を抑える
- ・がんによる体の症状を緩和する

ご自身の治療目的を知っておくことが大切です。



【薬物療法の投与】

がん治療に使用される薬剤には「点滴(注射)」と「内服」があります。薬剤は血液を通して全身をめぐるため、小さな転移にも効果が期待できます。一方、使用する薬剤や体の状態によって個人差はありますが、血球減少、脱毛、吐き気など何らかの副作用が出現します。しかし、吐き気を和らげる薬、白血球の減少を抑える薬の開発によって、日常生活に支障がない程度に副作用を軽減できるようになってきています。そのため現在は、入院だけでなく通院でも薬物療法の実施が可能になっています。

【薬物療法を受けるにあたって】

薬物療法は手術療法や放射線療法と比べて長期間になります。

当院では、患者さんやご家族の治療や病気による体や心の辛さや外見(アピランス)変化、治療費などの経済的問題、仕事の悩みなど、治療と療養生活を両立するための様々な問題に対して専門的知識・技術を持ったがん看護専門看護師・認定看護師と一緒に考え支援します。がん看護外来や患者サポートセンターをご利用ください。



参考:佐々木恒雄監修:がん薬物療法看護ベスト・プラクティス.照林社.2020.

治療をしながらお仕事について考えてみませんか？

患者サポートセンター 神保 圭子

がんの診断を受けられた患者さんの中には、「このまま仕事が続けられるのだろうか」「職場にはどのように病気のこと伝えたら良いのか」など、様々な心配事や不安なお気持ちを持たれる方がたくさんいらっしゃいます。

お仕事を辞める前に、ぜひ患者サポートセンターにご相談下さい。

患者サポートセンターでは、働きながら治療が受けられるように相談員がお話を伺い、問題を解決するためのお手伝いをさせて頂いています。また、スムーズな就職や職場への復帰に向けて、ハローワーク新潟や新潟産業保健総合支援センターと連携して、就労・両立支援の出張相談を行っています。

今回は、当院と協働して支援を行っているハローワーク新潟と新潟産業保健総合支援センターによる就労・両立支援の出張相談についてご紹介させていただきます。



	新潟産業保健総合支援センター	ハローワーク新潟
相談の対象になる方	がんセンターで治療しており、仕事に就いている方で、治療しながら仕事を続けたい方、復職したい方	がんセンターで治療しており、治療しながら働ける仕事を探したい方、転職を希望している方
相談内容	社会保険労務士などの資格を持つ「両立支援促進員」が、今までの仕事や雇用契約の内容を確認しながら、病状、治療状況などを考慮して、業務上の配慮や調整が必要な内容について患者さんと一緒に考え、職場と復職に向けて話し合う際のアドバイスをを行います	専門の就職支援担当者「就職支援ナビゲーター」が、患者さんの能力や適性、病状、治療状況などを考慮して、希望にあった仕事を紹介します
相談日	日程調整の上、随時実施	毎週木曜日 10時～13時(予約制)



相談予約の受付

がんセンター新潟病院 患者サポートセンター 電話 025-266-5161 (直通)
月～金(休日は除く) 9時30分～16時00分